

2008年3月23日
イースター

生きるはキリスト

- 今、復活のいのちと一つ -
ピーター

わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。(ピリピ 1:21)

生きるはキリスト。

なんという直截(ちよくたい)なことばだろう。

パウロは、「生きる」とは「何々をする」と言わず、「生きるはキリスト」と叫ぶ。英語も日本語も、「生きるとはキリストである」"To live is Christ."と述語動詞「である is」を入れてくれているが、ギリシャ語には、それもない。(ト・ゼーン・クリストス) 直訳

するなら、「生きるはキリスト」それだけだ。そして、それだけでいい。

「生きるとは、キリストを信じることである」と言うなら、まだわかるが、ここではもう一切説明ははぶかれた。ものすごく直截(ちよくたい)ないのちがあるからだ。触れば、血が噴き出すいのちがある。

この人は、人生のぎりぎりのことばを言ったのだ。極限のことばに、装飾は要らない。

そして、私は信じるが、人はかならず自分の人生を総まとめすることばを吐かねばならぬ時が来る。かならず来る。

私にとって、それは何だろう。人生のすべてをかけて、一番大事な告白のことばを吐くとしたら。

生きるは贖い。

私なら、そう言う。躊躇(ちゆうじゆ)するものはない。これが、私のぎりぎりのことばだ。

私には、見えるものがある。完全なる贖い。

人がなんと言おうと、世界が暗闇に蔽(おほ)われ巷(ちまた)は阿鼻叫喚(あびきょうかん)の地獄図(じごくず)になろうと、私には、見えるただ一つの実存がある。キリスト贖い主と、贖われた世界。

世界はかぎりない光につつまれ、愛の愛に活かされ、贖い主とあがなわれたものがまったく調和する現実がある。復活の世界が、ここにある。

遠い世界ではない。今、ほんとうに今、復活のいのちが満ちている。

永遠は、たしかにその姿を現してきた。永遠とは、今。この「今」を、見よ。

人は、その見るところのものとなる。

永遠の愛と私の間に、もう距離はない。私は贖いの愛、そのものとされる。

Perfect love in everything, for perfect redemption is unfolded for now.

And truly everything is completed in His praise.

すべてに現れる完全なる愛

まったく贖い 今 開示されれば

さんびの中にすべては完成せん



(2008/02/25)

ピーター、美津子担当 合同礼拝のお知らせ

・ 3月30日(日) 10:30

会場: 山口県萩集會(堀宅 リーダー山里京子) 萩市大字須佐高山(じやま)

交通: JR 須佐から車で約 10 分

(電車の便数が少ないので、自家用車でのご来場をお勧めします)

・ 4月13日(日) 10:30

会場: 日本聖公会 沖縄教区センター ベッテルハイムホール 浦添市前田

交通: バス前田入り口下車

詳しくは、本部事務局・中四国窓口、沖縄窓口までお問い合わせ下さい。

荒野聖研のお誘い

子羊の群れでは、聖書のみことばに向かい神様から語られたことをレポートする「荒野聖研」をしています。人に聞くのでもなく、注解書を見るのでもなく、ただ一人主に向かい静まる時に湧いてくる思いなどをお書き下さい。メール、または封書で本部事務局までお送り下さい。たくさんレポートをお待ちしています。

3月荒野聖研課題「御霊を受けている人」提出日 3月28日

御霊を受けている人は、すべてのことをわかまえますが、自分はだれによってもわかまえられません。(コリント人への第一の手紙 2:15)

これはどういうことですか。そしてそれはなぜなのでしょう？

荒野聖研メールアドレス arano@kohitsuji.com

子羊の群れ本部事務局内 荒野聖研係

3月芦屋教会 礼拝 & 聖書研究

日曜礼拝(10:30~)		水曜聖研(10:30~)	
23日	イースター礼拝(芦屋教会)	26日	詩篇 118 篇
30日	礼拝		

4月5日(土)10:30より、芦屋教会にて公開賛美練習があります。

週報が新しくなりました

新しい週報は今までよりも更に、初めて礼拝に来られた方、まだ神様を知らない方にも読んでいただけるような内容にしたいと願っています。また「さんびの風」に掲載されていた「平和の祈りとさんび」の曲目や「荒野聖研」の課題なども週報に掲載していく予定です。

子羊の群れ本部事務局 〒662-0945 兵庫県西宮市川東町 6-7-103

TEL 0798-32-1005 HP アドレス <http://www.kohitsuji.com/>